

RICHARD CLAYDERMAN 2019 WITH STRINGS TRIO & PERCUSSION

心に響く新鮮で魅力的な旋律、ライブならではの力強いステージ、華麗なるピアノを爽やかな風にのせて……。

リチャード・クレイダーマン

with スtringス・トリオ & パーカッション

2019.5.10(金) 13:30 開場 14:00 開演

ノバホール

つくば市吾妻 1-10-1

全席指定 ¥7,000[税込] (財団友の会300円引き/当日券500円UP)

主催: IBS茨城放送/桐生音協 共催: (公財)つくば文化振興財団
後援: JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント 企画制作: ミュージックリーグ

【お問合せ】 (公財)つくば文化振興財団 029-856-7007
茨城放送企画事業部 029-243-4111 / 桐生音協 0277-53-3133

チケット絶賛発売中

2018年12月9日(日)~

- ◎ノバホール
029-852-5881 (9:00~20:00/月曜休)
- ◎つくばカピオ
029-851-2886 (9:00~20:00)
- ◎(公財)つくば文化振興財団
029-856-7007 (9:00~17:00/月曜休)
- ◎(公財)つくば文化振興財団HP
tcf.or.jp
- ◎茨城放送
029-243-4111
(企画事業部/月~金10:00~17:00)

- チケットぴあ
0570-02-9999 (Pコード:135-562)
- ローソンチケット
0570-084-003 (Lコード:34787)
- CNプレイガイド
0570-08-9999
- e+(イープラス)
http://eplus.jp/



RICHARD CLAYDERMAN 2019

with Strings Trio & Percussion

リチャード・ クレイダーマン

with スtrings・トリオ & パーカッション

リチャード・クレイダーマンのジャパン・ツアーが2019年で40年目を迎える。

1980年の初公演から毎年欠かさず来日ツアーを行っていると言うと驚かれるのだが、関係者やファンにしてみれば、その事実が知られていないことの方が驚きだ。日本での公演回数が最も多い海外アーティストといえば、1962年に初来日し、2018年に57周年を迎えたベンチャーズだろう。しかし、彼らとて来なかった年もあり、メンバーも入れ替わっている。40年もの間、日本を訪れて演奏しているクレイダーマンと我が国の深い絆は、もっと注目されて良いのではないだろうか。

昭和、平成そして次の時代をも見ることになった彼は、日本の主要な出来事にも常に心を寄せてきた。2011年3月の東日本大震災後には、多くの海外アーティストが来日を控える中、クレイダーマンは5月に予定されていたジャパン・ツアーを全うし、翌年には仙台の被災地を訪れてファンと交流した。一方、谷村新司と石井竜也が共作した震災遺児のためのドネーション・ソング「風の子守歌～あしたの君へ～」の趣旨に賛同してピアノでカバー。この曲は2012年の来日記念盤「プレイ・フォー・ジャパン」に収録され、その印税は「毎日希望奨学金」に寄付されている。

谷村新司との縁はその後も続いており、2017年にはクレイダーマンの40周年と谷村の45周年のアルバムで互いの楽曲をカバーするという企画が実現。クレイダーマンは「昴」「いい日旅立ち」をレコーディングし、谷村は「渚のアデリーヌ」と「午後の旅立ち」に自ら歌詞を付け、タイトルを変えてアルバムに収録した。

2018年、クレイダーマンは久しぶりの仙台公演のステージで「震災のことは忘れることができません。災害を乗り越えてこられた皆様の勇気に敬意を表します。応援の気持ちを込めて演奏します」と語り、「いい日旅立ち」を披露した。2019年には福島での公演も予定されているが、クレイダーマンにとって日本での通算777回目のコンサートに当たるということもあり、特別な夕べになりそうだ。

2018年後半、フランス音楽界の大物たちが相次いで他界した。10月にはシャンソンの神様と言われたシャルル・アズナヴールが、11月には「男と女」「白い恋人たち」など多くの映画音楽を作曲したフランシス・レイが世を去っている。アズナヴールの楽曲のアレンジで有名になったポール・モーリアをはじめとするフランスのムード音楽の巨匠たちが故人となり、寂しい限りだ。モーリアやレイモン・ルフェーヴルが築き上げたグラウンド・オーケストラのスタイルとは異なるが、イージーリスニング界を担う現役アーティストとして、クレイダーマンには一層の活躍が期待される。

彼は2017年から18年12月まで、デビュー40年ツアーで世界を回ってきた。2019年はデビュー50年に向けての新たなスタートの年となる。年をまたいで6週間にも及んだ大規模な中国ツアーを皮切りに、インド、英国、南米チリを経て、5月は毎年恒例のジャパン・ツアー。東京、福島など8都市で9公演が予定されている。

彼のライブは、不朽のオリジナル・ナンバーはもとより、映画音楽、スタンダード・ポップス、古き佳き時代のシャンソンなど、幅広いレパートリーが散りばめられ、音楽の楽しさとエネルギーが溢れるエンターテインメントだ。

60歳を過ぎてなお若々しく、ピアノと"対話"しながら演奏するクレイダーマンの姿は、ステージでしか見られない。貴公子と呼ばれた時代をご存じの方もそうでない方も、ぜひ会場に足を運んで、今の彼の魅力を発見していただきたい。